

The side story of ARKLAYDER

Presented by

CAISOFT

1989

D I A L I D E の起動方法

- (1) X1のスイッチを入れてください。
 - (2) DISK1をドライブ0に入れてください。2ドライブの方はDISK1をドライブ1に入れてください。
 - (3) リセットスイッチを押してください。
- 以後、1ドライブの方は指示があるごとにディスクを入れ替えてください。

ゲームのスタート方法

ジョイスティックを1番に入れ、ボタンを押してください。

なお、このとき「上+ボタン」でトリガー左右反転、

「下+ボタン」でトリガー左右反転、解除

「左+ボタン」で1トリガー連射モード、

「右+ボタン」でミュージックモードになります。

また、ラウンドNo. を押しながらスタートするとラウンドセレクトとなります。

他は…自分で探してください。

操作方法

ジョイスティック : 移動
トリガー左右 : ショット左右
ESC : ポーズ

ウェポンについて

ウェポンは敵を撃破することにより出現します。これを回収することにより自分の装備(左右各2門)とすることができます。この時、自機の右側から取ると右の左側から取ると左の装備になります。

ウェポンには次のものがあります。

N: ノーマル。前方に飛ぶ普通のショットです。

R: リアショット。後方に飛ぶショットです。

L: レーザー。自動4連射の高速ショットです。

M: ミサイル。斜め前に飛ぶショットです。

B: ボム。前方に極めてゆっくり飛ぶ機雷です。

? : ステージにより内容が変わります。

敵に合わせてうまく装備することが上達への近道です。

STORY of DIALIDE

同盟軍主星において、最新鋭攻撃機ロールアウト、コードネーム“アークレイダー”。

その機体性能のテストのため、無尽の砂の惑星メサイヤに向かう。新しく開発された亜光速フライユニットをつんだ“アークレイダー”は、その性能をあますことなく発揮し、光速戦艦級のスピードで惑星メサイヤに着いた。

単独で大気圏突入を果たしたエルムソートが見たものは、一面に広がる砂漠とピラミッド、そして帝国の迎撃戦闘機だった。

エルムソートは敵機を破壊しつつ、レーダーに映る最も大きな熱量を持つものに向かって飛んだ。

だが、基地へとたどり着いたエルムソートを待っていたのは、基地のガーダーとおぼしきスフィンクスだった。

スフィンクスを倒し、基地を破壊したエルムソートは、基地のメモリーバンクからある情報を得た。それは、アスファロス恒星系制圧の第一歩として、主星カスガを強襲するというものだった。

エルムソートは惑星カスガを、そして来夢姫を守るため、反重力磁場発生装置（リグラビティフィールドユニット、以下RGFU）の応用による空間跳躍（リープ）で惑星カスガへ向かう。

なお、この惑星での戦闘でRGFUのリアクターに欠陥が見付き、短期間に4度以上、反重力磁場に何か接触した場合、RGFUが暴走する可能性が極めて高いことが判明する。

惑星カスガに着いたエルムソートは、すでにそこが帝国の攻撃にさらされているのを見る。

惑星カスガの海に降り立ったエルムソートは、そこからカスガ城を目指す。しかし、すでに海上の制空権は帝国側にあり、敵の執ような攻撃がエルムソートを襲う。敵の攻撃をかわしながら進むエルムソートの目に、やがて陸地が見え始める。そのとき、敵の移動要塞と思われる巨人ポセイドンがエルムソートの行く手を阻む。

ポセイドンを倒したエルムソートは、やがて眼下にカスガの城下町が見える所まで機体を進める。そこに、帝国の第2派がエルムソートを襲う。

なおも機体を進めるエルムソートの前に、カスガ城の前に立ちはだかるアシュラが現れる。

アシュラを倒しカスガ城に降りたエルムソートは、来夢姫が逆臣エンダールに連れ去られたことを、また、敵の司令船とおぼしき母艦が惑星カスガの上空にいるということを知る。

それを聞いたエルムソートは、一時の休息もせず、再び“アークレイダー”に乗り込む。

エルムソートは、まず敵母艦の下まで惑星上を飛び、それから一気に大気圏離脱をはかることにしたが、そこに敵の第3波が襲い来る。大気圏を離脱したエルムソートは、宇宙空間で敵の母艦と対峙する。しかし、来夢姫は、すでにどこかへと移送された後であった。

敵母艦を倒したエルムソートのもとに、惑星カスガから通信が入る。エルムソートとアステロイドベルトの中間点に、惑星カスガ強襲作戦のための兵力を輸送してきた巨大輸送空母がいる。それが、通信の内容だった。かくしてエルムソートは巨大輸送空母へと向かう。

巨大輸送空母に侵入したエルムソートは、そのメモリーバンクから、来夢姫がアステロイドの秘密基地に連れていかれたことを突きとめる。エルムソートは、来夢姫を救出するため、敵の拠点へ突入を敢行する。やっと基地を見つけ、その内部に入ろうとするエルムソートの前に、緑色の人型機動ユニットが行く手を阻む。

基地内部に侵入したエルムソートは、その中をひたすらに進んだ。無限にも思える敵機の攻撃はやむことなく続いている。基地内を破壊しながら進むエルムソートは、やがて巨大な格納庫へとたどり着いた。

目標は基地中枢と来夢姫。それはもっと奥にあるはずであった。「くそっ！ 何だってこんなに広いんだ」そうエルムソートが吐き捨てたそのとき、始動をはじめた巨大な戦艦を見る。

そして、その戦艦を守るように立ちはだかる蒼い戦艦を。「ヴェルファーンか！」ヴェルファーン。それは同盟軍に蒼き風として恐れられていた。エルムソートがヴェルファーンを見たのはこれが初めてだった。

「俺はこんなところで足止めを食らっている時間はないんだ、基地が崩壊する前に来夢姫を救いさなければ…」そこに、ヴェルファーンから通信が入る。

「来夢姫は私の後ろの戦艦グ・ヴェル・バースにいる。助けたければまず私を倒すことだ」

「そ、その声は兄さん！ イリュソート兄さん、生きていたんだね」「確かに私の名はイリュソートだが、私に肉親はいない」「兄さん、ひょっとして記憶を…」

「たわ言はそれまでにしてもらおうか」いい終わった瞬間、ヴェルファーンからの攻撃が始まる。アークレイダーのその機動性を生かした攻撃が実を結ぶときが来た。蒼き戦艦ヴェルファーンはその艦橋から火を吹いていた。

「ごめん、兄さん」アークレイダーの攻撃は決定打を浴びせた。沈み行くヴェルファーン。そのとき、崩れゆく青い戦艦“ヴェルファーン”から通信が入る。

「エルムソート…か、よくここまでつよくなったな…」

その声はイリュソートのものだった。

「洗脳されていたとはいえ、済まないことをした。おまえの機体だけではグ・ヴェル・バースを沈めることはできん」

「だが、俺は来夢姫を助けなければならない」

「そうだ、だから私が力を貸してやる」

蒼き戦艦は徐々にその高度を取り戻していた。

「私の船のクルーは優秀な奴らばかりだ。死にゆく船にも一時の生を与えてくれる。しかも、帝国のためではなく、この私のために死んでくれるという。エルムソート、おまえに、私達全員の命をくれてやる。必ず帝国を倒せ。いいな、我が親愛なる弟よ」

そこで通信は途絶える。

ヴェルファーンはグ・ヴェル・バースに向かって加速していった。

「兄さん、馬鹿なことはやめるんだ！」

機首がグ・ヴェル・バースにつき刺さった少し後、グ・ヴェル・バースの機体が黄金色の輝きに包まれる。

ヴェルファーンの機体はつき刺さった機首以外全て消失していた。

「な…に…、リグラビティフィールドユニットだと…」

グ・ヴェル・バースは格納庫の天井につき破って、基地から飛び立とうとしていた。

アステロイドベルトの一角で光が踊っていた。さながら、炎の手が遠く伸び、そしてまた別の手に包み込まれていくように。

その炎のなかから、巨大な戦艦が姿を現し、それを追うかのように一機の戦闘機が炎の手を振り払いながら現れる。

今、最後の闘いが始まろうとしていた。

グ・ヴェル・バースはその周囲にシールドを張っていた。それも、アークレイダーのものよりも高性能なものを。したがって、エルムソートは、グ・ヴェル・バースの内部に侵入することはおろか、傷一つつけることさえできなかつた。

このままでは来夢姫を助けることさえも…、どうすればいい？

エルムソートは焦燥にかられていた。

突然、グ・ヴェル・バースのシールドが消えた。

「エルムソート、シールドは私が止めた。逃げ、そんなに長く帝国の兵士を食いとめることはできん。早くこいつの機能を停止させるんだ。来夢姫を助けるのはそれからでも遅くはない。来夢姫の位置を今からそちらに送る。こいつの機能を停止させたら、おまえはこのグ・ヴェル・バースに乗り込め、そして来夢姫を助けだせ。…どうやら敵さんのお出迎えのようだ、死ぬなよ、惑星エピダウロス第二王子エルムソートよ。Good Luck」

それは、血まみれのイリュソートからだった。

イリュソートは、自らの命で今までの罪を清算しようとしているのであった。

「兄さんっ！」

エルムソートの絶叫が、深淵の宇宙空間に吸い込まれていく。

「俺は…、俺は帝国を許さない！」

- EC1285 アスファロス恒星系のアステロイドベルトにて、帝国の秘密基地を発見、そして破壊した。それを成し遂げた人物はエースパイロットである、エルムソート。しかし彼はこの時の事を語ろうとはしないため、詳しいことは一切不明。
エルムソート、この後軍を退役する。
- 1286 アークレイダープロジェクトという作戦が、先年行なわれたらしいが、それに関する情報はなにも得ることができなかった。どうやらトップシークレットらしい。新型戦闘機が量産ラインに乗る。
しかし、その性能は従来のものを少しよくした程度で、なぜこんな中途半端な開発をしたのかという疑問が沸いた。
この点に関して開発スタッフは口を貝の様に閉ざしている。
- 1287 エオリアス恒星系侵攻作戦開始。
第5惑星ターヘリオン制圧。
- 1288 第4惑星アルファーガス、第3惑星エピダウロスと続けて制圧するもの、その直後に猛攻を受けて、惑星エピダウロスは再び帝国の手に落ちる。
その少し後、惑星エピダウロスの前線基地が突然破壊する。白い見たこともない戦闘機が飛んでいるのをみた。という人が何人かおり、その白い戦闘機が関係しているのは間違いないと思われる。
- 1289 エオリアス恒星系侵攻作戦は遂に終結をみた。同盟軍の勝利だ。
その間、何度か白い戦闘機が目撃されている。
- 1293 遂に同盟軍は帝都の目と鼻の先という地点まで駒を進めた。同盟軍最終作戦が敢行された。つまり、帝都強襲である。
戦力の差は大きかったが、兵隊の士気が高い今を逃がしては他に機会はないと判断されたらしい。無謀な作戦であった。そしてそれは予想どおり敗戦の色を濃くしていった。
そのとき一機の白い戦闘機が虚空から現れた。空間跳躍してきたのだ。
その後、数時間のうちに帝都はおちた。
同盟の兵士達は見た。白い戦闘機にかかれたコードネームを。“アークレイダー”たしかにそこにはそう書かれていた。
この後、この白い戦闘機は二度と歴史の舞台へと現れることはなかった。

余談ではあるが、この少し後、惑星カスガの来夢姫は置き手紙を残して姿を消している。
「彼と行きます…。」

ある同盟軍兵士の手記より抜粋

登場人物紹介

エルムソート…20歳 ♂

惑星エピダウロスの第二王子。この若さで同盟軍のエースパイロットであり、このゲームの主人公。

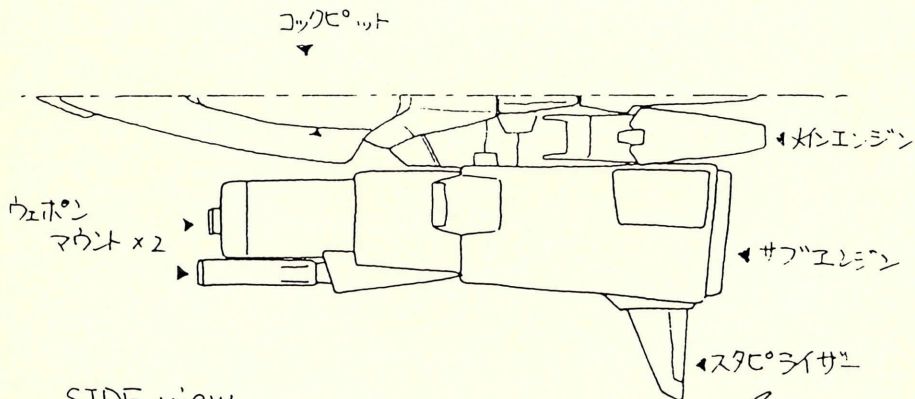
来夢姫（らいむひめ）…17歳 ♀

惑星カスガの姫。エルムソートがまだ惑星エピダウロスの王子だった頃から彼の事を慕い続けている。このゲームのヒロイン。

イリュソート…25歳 ♂

惑星エピダウロスの第一王子。蒼き風として同盟軍に恐れられるヴェルファーンを駆る。ディアライドの物語の中では重要人物である。敵として登場。

UP view.



SIDE view.

